

Part2 光未利用2200万に照準 初心者向けにリビングPC

NTT東日本エリアだけでも2200万世帯も残っている光未利用者層。NTT東西はそこに向け、映像系を中心に初心者でも分かりやすいサービスをサポートメニュー等とセットで提供していく。

ユーザーにNGNの良さを実感してもらうには、サービスメニューの拡充だけでなく、アクセス回線サービスである「フレッツ 光ネクスト」の拡販が不可欠だ。NTT東西では、東日本が今年度末(2010年3月)、西日本が来年度末(2011年3月)までに既存のBフレッツ/フレッツ光の提供エリアの全域を光ネクストのエリアにする計画だ。これに伴い、提供エリアになった地域から、新規獲得は原則光ネクストとしている。つまり、両社のフレッツ光の拡販戦略は、光ネクスト(NGN)の拡販戦略と捉えてよい

だろう。

パート2では、NTT東西のNGN拡販の取り組みに焦点を当てる。

CATVとの連携で映像系を拡充

NTT東日本の6月末現在のフレッツ光の加入数は667万8000に達している。だが、光の提供エリア内にはまだ1500万世帯もの光サービスの未利用者がある(ADSLユーザーを含む)。さらにフレッツ光の未提供エリアには700万世帯がある。つまり、東日本エリアだけでも2200万もの光サービスの未利用世帯が残っているの

だ。今後はこれだけのユーザーをNGNに誘導していくことになる。

図表2-1と図表2-2にNTT東西のフレッツ光の拡販戦略を示した。ポイントを大別すると、ノンPCユーザー(インターネット未利用層)の取り込みと、提供エリアの拡大の2つになる。

ではまず、映像系サービスの拡充がある。NTTグループのTVサービスは現在、NTTぷららとアイキャストが提供するIP方式の「ひかりTV」と、オプティキャストが提供するRF方式の「フレッツ・テレビ」があり、ともに地デジ対応の映像サービスとして訴求している。

ちなみに、ひかりTVの地デジ再送信は、フレッツ 光ネクストのユーザーのみが利用できるサービスとなっている。11月4日からは北海道での視聴が可能になる予定で、エリアは東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、大阪府、京都府、兵庫県、愛知県の9都道府県に広がる。

映像系サービス拡充の新たな取り組みとして、NTT東日本は地方のCATV事業者との協業を進めており、第1弾として9月1日からケーブルテレビ山形と共同で「ケーブルテレビ山形&フレッツ光」の提供を開始した。

ケーブルテレビ山形がサービスエリアを拡大する際、自社でネットワー

図表2-1 NTT東日本の「フレッツ光」需要拡大に向けた取り組み

2009年度の目標は純増140万加入。この内、「フレッツ 光ネクスト」は90万~100万を見込む

主要取り組み項目

